

## 平成 29 年度 アゼンブリ川 プロジェクト申請書(差し替え)

プロジェクト名	「子どものためのいのちの教育」を考えるプロジェクト
主な活動場所	<input checked="" type="checkbox"/> 学内 <input type="checkbox"/> 病院内 <input checked="" type="checkbox"/> 学外
担当教員	[所属・氏名]  医療科学部 看護学科 朝居朋子
内 容	[プロジェクトの概要] 現代社会では、身近な人の看取りをする経験に乏しく、人が亡くなるとはどうか、死別の悲嘆や喪失にどう対処するのかを日々の生活の中で学ぶことは難しい。その反面、がん対策基本法によるがん患者の在宅療養や地域包括ケアが推進され、今後は家庭で死別を経験することが多くなると考えられる。また、テロ、虐待、いじめ、通り魔事件など、いのちを脅かすようなニュースが日々報道されている。そこで、子どもが生と死について自ら考え、自分なりの死生観を培うためにはどのような教育内容や教材が望ましいか、医療人を目指す学生の視点から考える。また、「医療+教育+地域」という異なる3つの領域が融合する活動を目指す。
	[具体的な活動内容] 対象（小・中・高校生）を設定し、子どものためのいのちの教育に関する授業案の作成や教材の開発について検討する。学校に働きかけ、模擬授業を実施する機会を得る。教職志望の他学学生（南山大学、金城学院大学）との交流を図り、アイデアを交換する。
	[活動に参加することで得られるスキル（社会人基礎力）] ① 前に踏み出す力（主体性、働きかけ力、実行力） ② 考え抜く力（課題発見力、計画力、創造力） ③ チームで働く力（発信力、傾聴力、柔軟性など） ④ プレゼンテーションスキル ⑤ 医療人として社会や領域外の人たちと積極的に関わり合う力
	[受け入れチーム数] ※ 5～8名/1チーム  _____ 1 _____ チーム 【プロジェクト全体で _____ 8 _____ 名】
	[活動を予定している時間帯や日付など]  学生と相談の上、決定する。
	[その他] 「29年度社会人基礎力育成グランプリ（社会人基礎力協議会主催）」に応募する。